



23 TOKYO

区政会館だより

No.325

平成29年4月

豊

島

区



「地方居住を考えるワークショップ」のメンバーで秩父市の現地見学ツアーを行いました(2016年)

特別区長会事務局
特別区議会議長会事務局
特別区人事・厚生事務組合
公益財団法人特別区協議会
東京二十三区清掃一部事務組合
特別区競馬組合

全国につながる
連携の輪

住民協働による「多世代型CCRC」

中

央

区



定員を上回る応募がある親子体験ツアー。檜原村にある「中央区の森」を訪れるだけでなく、川遊びも楽しめます(2015年)

美しい地球を未来のこどもたちに「中央区の森」

檜原村の数馬地区で行われた
中央区の森の看板除幕式(看
板の右が矢田美英中央区長)
=2006年10月19日

全国につながる
連携の輪 中央区



美しい地球を未来のこどもたちに「中央区の森」

今から11年前、中央区は、行政区域を越え、広域的な視点に立つた温暖化対策に乗り出しました。連携の相手は檜原村。直線距離にして中央区から約57[※]離れた東京の西端部の村に、区は2006(平成18)年から「中央区の森」を整備し、荒廃した森林の保全支援や木材資源の利活用、環境学習や交流などを行っています。

行政区域を越えた温暖化対策

中央区は、区内に緑豊かな浜離宮恩賜庭園があるものの、緑被率が低いことから、再開発のまちづくりに合わせて整備される公園や公開空地、屋上緑化など、緑を着実に増やしてきました。しかし、同区は日本の経済・商業活動の中心地で、二酸化炭素の排出量が多く、区内の緑化推進だけではそれらを吸収するには限界があります。そこで、区が着目したのは、ひのほらむら檜原村数馬地区の森林でした。

檜原村に「中央区の森」誕生

区は、檜原村や地元の人々で構成されたNPO法人里山再生塾などと協定を結び、区が檜原村の森林保全活動を支援する「中央区の森」事業が始まりました。事業を安定的に運営していくために「中央区森とみど

りの基金」を設置し、区民などからの寄附のほか、市街地開発事業指導要綱に基づく開発協力金、アルミ缶や古紙など資源売り払い収入、フリーマーケット出店料を積み立てるなど、区民・事業者・区が協働して事業を支えています。

中央区の森では、間伐を進めるために整備した作業道を、誰もが気軽に訪れることができるようベンチや案内板、樹名板を備えた散策路として活用しています。また、森の魅力を高めるため、モミジやカタクリなどの植栽を行うほか、間伐した広葉樹をシイタケのほだ木として活用するなどしています。さらに、以前あった炭焼き窯を復元し、切り出した広葉樹で炭を焼き、その炭を区内のデイクャンプ場で配布して、事業の周



区民向けの体験ツアーでは中央区の森で間伐体験もできます
(2016年)

知にも努めています。

また、間伐材は、区内の公園のベンチや、区内を循環するコミュニティバス「江戸バス」の停留所ベンチにも使用されています。

毎年、春と秋には区民や在勤者などを対象とした体験ツアーを開催しています。炭焼き体験や植樹を行い、メイメイイベントは間伐の体験です。夏には親子自然体験ツアーも行われ

ます。中央区の森で間伐作業の見学やネイチャーゲーム、南秋川での川遊びなどを行い、檜原村の豊かな自然にふれあうことができます。毎回、定員を上回る応募がある人気ツアーです。

区は、村との一層の連携を図るため、2011（平成23）年8月、「中央区の森環境ふれあい村推進協議会」を設置し、施策の充実に向けた検討を行うこととしました。この結果、2012（平成24）年4月には新たに南郷地区の村有林（約4・9畝）について協定を締結し、中央区の森を拡大しました。こちらは、森林保全業務を東京都森林組合に委託しています。

南郷地区は、数馬地区から約10キロ離れた場所にあります。数十年前、手入れがされておらず、樹木が生い茂り、光の入らない森になっていました。ここでは、人工林（針葉樹）を約8割程度伐採して広葉樹を植樹することにより、自然豊かな森への復元を目指しています。

南郷地区で伐採した木材は、これまでのベンチなどへの活用に加え、区立環境情報センターの内装や区立

春はさくらんぼの季節

●東根市との友好都市交流●

山形県東根市は、中央区の友好都市です。同市は果樹王国で、毎年6月、さくらんぼの季節になると中央区で「さくらんぼ祭」を開催します。東根市の名物と言ってもいいさくらんぼ種飛ばし大会は、毎年、大勢の人たちでにぎわいます。

中央区と東根市との交流は1988年に、東根市からさくらんぼの苗木の寄贈を受けたのがきっかけで始まりました。2016（平成28）年には友好都市提携の締結から25周年を迎えました。

東根市は奥羽山脈の西にある山紫水明の盆地で、山形新幹線には「さくらんぼ東根駅」と駅名が付けられているほど各種果物が豊富です。これまで幼稚園児へのさくらんぼやりんごのプレゼントはもとより、10トトラック20台分の雪の提供による「雪まつり」などのイベント開催も実施されているほか、各種イベントの相互参加、両区市の児童が隔年で相互に訪問する児童交歓会なども行われ、幅広い世代の市民交流が続いています。



さくらんぼ祭はさくらんぼ種飛ばし大会で大いに盛り上がります

豊海小学校の図書室の本棚やカウンターにも活用されています。

都心区だからこそ細く長く

中央区が年間に排出する二酸化炭素は約240万トに達します。経済活動が活発な都心区であるがゆえ、環境に与える負荷も大きくなります。一方、檜原村がある多摩地域の広大な森林は、その二酸化炭素の吸収源としての役割を担っています。しかし、林業従事者の減少や高齢化

が進み、健全な森林整備が遅れています。

中央区の森事業は、二酸化炭素の吸収源である森林を守り、育てることを通じて、地球温暖化防止に寄与するとともに、環境保全意識の普及・啓発に役立っています。

また、檜原村にとっても、荒廃が進む森林の回復や、NPOなどの活動促進、林業の技術継承、村のPRなどにつながっています。事業実施当初、区域を越えた温暖化対策とし

て始まった「中央区の森」ですが、間伐材の活用や体験ツアーの実施などの交流を通じて、中央区の区民が檜原村の自然や生活・文化を知りきっかけにもなっています。

まだ全国連携という言葉もなかった時代、都心区と山間部の村が行行政区域を越えてタッグを組んだ中央区の森事業は、昨年で10周年を迎えました。区は、2017（平成29）年度に現在の協定地域での間伐等が一度巡ることから、2018（平成

30）年度以降の森林保全活動について、協定地域の拡大等、事業計画を検討していきます。担当者は「森林を守り、育てるのは、経済活動で環境に負荷をかけている都心区の使命です。10年以上持続してきたこの事業をこれからも息の長い取り組みにしたい」と抱負を語りました。

事業開始から11年、細く長く持続してきた中央区の森事業は、地球環境を守るという都心区の使命を未来につなげる礎になることでしょう。

アンテナショップが大集合



2015年の
アンテナショップ
スタンプラリー10周年では
ご当地キャラが大集合しました

スタンプラリーで連携

中央区には各道・県・市の情報や特産品などを楽しめるアンテナショップが数多く集まっています。毎年、中央区観光商業まつりが開催される10月には、中央区内を巡りながら各店の魅力を知ってもらうため、区と各アンテナショップが連携し、「アンテナショップスタンプラリー」を実施しています。昨年は、北は北海道から、南は沖縄県まで、全国の27県・道・市の28店舗が参加しました。

各アンテナショップを巡り、期間中に規定数以上のスタンプを集めて応募すると、各地の特産品など抽選で素敵な賞品があたります。さらに、全店舗のスタンプを集めた方から抽選で1人に全賞品の詰め合わせ「コンプリート賞」が贈られます。

これも、全国からたくさんの方が訪れる商業地を有する中央区ならではの全国連携です。